

2月定例会 予算案に対する反対討論本会議 わしの恵子議員(3月10日)

安倍暴走政治から市民を守る防波堤に。リニアを起爆剤にした大型開発をやめ、暮らし優先のまちづくりを

3月10日に2015年度予算案の採決が行われ、わしの恵子議員が反対討論を行いました。

社会保障改悪などをそのまま押し付け

わしの議員は、「安倍政権の消費税増税や社会保障解路線が、市民の暮らし直撃しているが、市は、社会保障改悪など悪政をそのまま市民に押し付け、悪政からの防波堤になっていない」と厳しく批判しました。

介護保険料の年間5448円の値上げなど暮らしを守る防波堤になっていない

介護保険料が年間5448円の値上げが提案され、65歳以上の方に新たな負担を総額42億2153万円強いました。わしの議員は「国は消費税が財源とはいえ、公費を投入して負担軽減に踏み出したように市も負担軽減すべき」と指摘しました。また1万2千人を超える高齢者の利用料負担を1割から2割に引き上げること、マイナンバー制度導入はプライバシーの漏えいなど、様々な問題があること、愛知県は私立高校生の授業料補助を増額したが名古屋市が増額しないことは私学助成制度の趣旨に背くものであることなどを指摘しました。

新たな大型開発推進の予算

わしの議員は「リニア中央新幹線の開業を起爆剤として、「世界のナゴヤ」になるための空前のチャンスであると、名古屋駅周辺の大改造、アジア最大級の国際展示場、SL走行など新たな大型開発推進の予算」だと批判。

財界要望に応えた「駅周辺大改造計画」

リニア中央新幹線は、過大な需要予測で採算不安、膨大な残土、電力消費量、電磁波、大災害時への対応等々環境都市とは相いれません。JR東海の説明会も参加者に真摯に対応せず、大深度地下では所有権が及ばないような間違った説明を行い、後日ホームページを更新しました。わしの議員は「JR東海に協力して、リニアのための用地取得に市職員を数十人規模で派遣するのは問題。高速道路の名古屋駅の乗り入れの整備など、名古屋駅周辺の大改造計画は、財界の要望に応えたもの」と厳しく指摘し、「国民的な要求もないリニア計画は中止を。名古屋駅周辺は超高層ビルが林立する一方で、老朽化した

市営住宅の改修もままならないというゆがんだまちづくりからの転換を」と求めました。

SL走行より暮らしの拡充を



市民合意もないままあおなみ線の全線をたった2日間走らせることにより、レールの改修費などに3億円、SLの借入費用や車両整備費などに4000万円の予算が必要となり、大井川鉄道への需要喚起策など多くの費用がかかるSL走行へのこだわりを批判しました。

減税が市民負担増と福祉の民営化推進

河村市長は、市民税5%減税を継続、「行革」の名で市民負担増と福祉の民営化を進めています。

格差を拡大させるだけの減税は中止を

市長の「減税」は個人で最高470万円、企業で1億1900万円と、富裕層や大企業に手厚い減税です。市長は市職員の給与改定では「所得の高い人は辛抱して」と管理職を対象から外し、私学助成では一定の所得以上の世帯を対象とするので助成は引き上げません。ところが「減税」では真逆です。わしの議員は「河村市長の「減税」は、格差を拡大させるだけ、きっぱりやめるべき」と批判。

減税による税収減を口実に、公的福祉の解体、行政サービスの民間任せを推進しています。市立保育園のにじが丘、御田、南・氷室、振甫の各保育園を廃止、民間移管することは許せません。

組替え案の方向こそ自治体本来の姿

わしの議員は、日本共産党が提案した予算組み替え案の方向こそ国の悪政から市民の暮らしを守る防波堤となり、「住民福祉の増進」という地方自治体の本来の役割を発揮することができることを述べて討論を終わりました。

自公民はヤジばかりで討論もせず

市長や自民党席からは「共産党の演説だなー」とヤジが飛びましたが、あたりまえのこと。他党はすべて予算案に賛成、しかも賛成討論もおこないませんでした。